

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード南郷ルーム		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	明るく清潔な雰囲気、職員の目がしっかり届く空間が保たれており、子どもたちが「毎日楽しみに通所している」と保護者の皆様から高い評価をいただいている点が強みです。子どもたちが安心感をもって過ごせる心地よい環境を提供できています。	日々の支援に関する記録を徹底し、活動の振り返りや検証に役立てています。また、子どもたちが生活空間を分かりやすく把握し、落ち着いて過ごせるよう、目の届きやすい構造化された環境づくりを意識しています。	土曜日などの時間を活用して、職員全員で日々の支援の振り返りや情報の共有を行う機会をより多く設け、ルーム職員の支援力アップを図ります。一人ひとりの子どもに対する支援計画の共通理解をさらに深め、より質の高い療育を提供してまいります。
2	活動プログラムが固定化しないよう工夫し、毎週様々なイベントを企画することで、子どもたちが常に新鮮な気持ちで楽しめる環境を作れている点です。SNS等を通じてタイムリーに情報発信を行っており、ご家庭からも「分かりやすく楽しみ」とご好評をいただいています。	日々の活動の様子や行事予定をSNS等ですぐに発信し、ご家庭でお子様の様子をいち早く確認していただけるよう努めております。また、保護者様からのご相談やご要望に対しても、迅速かつ柔軟に対応できる体制を意識して取り組んでいます。	「先生が忙しそうで相談を遠慮してしまう」という保護者様のお声を受け止め、送迎時以外にもLINE等を活用したり、ご相談の機会を定期的にお知らせするなど、保護者様がいつでも気兼ねなく相談できるような安心の環境づくりをさらに進めてまいります。
3	SST(ソーシャルスキルトレーニング)を柱に、体幹トレーニングや、リトミック(音楽療育)、感覚統合あそびなど、多彩で専門的なアプローチを組み合わせ提供できている点が強みです。遊びを通じて協調性や生きる力を自然に育んでいます。	室内と屋外での活動をバランス良く分け、限られたスペースでも子どもたちがのびのびと活動できるよう工夫しています。また、音楽に合わせて体を動かすリトミックや課外活動を通じて、発語の促進や社会性の学習など、総合的な発達を促すよう意識しています。	保護者様からの「どのような特性に対し、どのような活動が訓練になっているのか知りたい」というお声にお応えし、日々の遊びやプログラムが「どのようなねらいや目的を持っているのか」を、より具体的に分かりやすく提示・発信していく工夫を充実させます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施や、夏祭りなどの大きなイベント以外で保護者様同士が交流できる機会が少なく、ご家族へのサポートや情報提供の場に改善の余地がある点です。	子どもたちが安全で楽しく過ごせるルーム内の環境整備と、日々の多彩な療育プログラム(リトミックや体幹トレーニング等)の提供を最優先に行ってきたため、保護者様向けの交流会企画や、活動の意図を詳細に伝える資料作成等に十分な時間を割けておりませんでした。	夏祭り以外のイベント等でも、保護者様が参加・交流できる機会を検討してまいります。同時に、毎回の活動が「何のためにやっているか(ねらい)」をSNSや通信で分かりやすくお伝えし、ご家庭と一緒にお子様の成長を喜べる体制を整えます。
2	事故防止や緊急時対応、防犯マニュアル等の策定・訓練は実施しているものの、その内容について保護者の皆様へのご案内や十分な周知が行き届いていない点に課題を感じております。	安全管理マニュアルの整備や日々のヒヤリハットの共有は行っているものの、それを保護者の皆様へ分かりやすく伝えるための「定期的な周知の仕組み」や、全職員が深い当事者意識を持つための組織的な振り返りの時間が不足していたと考えております。	保護者様が遠慮せずいつでもご相談いただけるよう、お声がけの強化や連絡ツールの活用など、コミュニケーションの取り方を工夫します。また、安全・防災に関する計画やマニュアルについても、定期的に分かりやすくご案内し、さらなる安心感に繋がります。
3	クールダウンが必要な際などに使用できる「個別のスペース」の確保が、現在の施設の広さではやや難しい場面がある。また、地域の他の子どもたちや保育機関との交流の機会が少ない点も今後の課題として認識しております。	職員の配置が少ない日もある中で日々の業務に時間を割かれ、地域との交流機会をつくる余裕がなかったことが主な要因と思われる。また、限られたスペースの中で完全に独立した個室を作るなどの物理的な制約も要因の一つです。	土曜日などを活用して全職員でのミーティングの時間を確保し、ヒヤリハットの共有や支援方針のすり合わせを強化して業務改善に努めます。また、完全な個室は難しくとも、パーテーション等を活用して落ち着ける個別スペース(クールダウン用)を作るよう工夫してまいります。